

明るい未来へ キラリ輝くまち 日野



町村合併55周年記念



日野町長
藤澤 直広

21世紀がスタートし10年目を迎える今年、日野町は、昭和30年3月16日に1町6村が合併して55周年の記念の年を迎えました。「平成の大合併」によって、滋賀県の市町村が50市町村から13市6町になるなど合併によって「町」が消えていく中で日野町が日野町として元気に歩みを進められることは素晴らしいことだと思います。



日野町議会議長
杉浦 和人

日野町は昭和30年3月16日、1町6カ村が合併して、本年は記念すべき55周年を迎え、皆様とともに喜び申し上げます。

今日まで厳しい財政事情の中、様々な生活・産業基盤の整備が進められ、町の繁栄に御尽力をいただきました先人の方々、住民の皆様のご苦労と英知に深く感謝申し上げます。

平成の大合併において、42町村ありました滋賀県は現在6町となり、全国で最も少ない大分

おかげ様で町民の皆さんの大きな願いであった日野中学校の校舎が竣工しました。下水道や道路などの基盤整備、子育て支援や福祉施策、特産日野菜の振興、三方よし！近江日野田舎体験などそれぞれの事業が進められることはうれしいことです。

昨年、「コンクリートから人優先へ」を掲げて政権が交代しましたが、今年はその中身がしっかりと実現する年としたいものです。そして、この町を愛し、真面目に暮らす人たちの思いが大切にされるまちづくりを町民の皆さんとともに進めてまいりたいと思います。どうかよろしくお願いします。

県の4町村、富山県の5町村に次ぎ、3番目となりました。次々と市制に移行される中、本町は住民の参画と協働のもと自律の理念を持って持続発展可能な町をめざした「自律のまちづくり」が進められています。県下で人口が一番多い町でありますことから、リーダーシップを発揮されんことを期待するものです。

日野町議会におきましても本年を契機として、さらに快適な生活環境の整備を図り、真に住みよい町づくりや、地方分権の時代にふさわしい行政展開を実現するため議会論議を深め、活気ある地方議会を目指すとともに議会改革に取り組みで参ります。

結びに日野町の一層の発展と皆様のご健勝をお祈りいたしましてご挨拶とさせていただきます。



歴史・伝統・文化を学び 支え合って 明るく元気な将来を拓く

昭和30年

昭和30年3月16日
新町誕生
日野小学校講堂で日野町開町式が行われました。



昭和30年4月23日
初代町長に
若村源左衛門氏当選

昭和30年4月30日
第1回町議会議員選挙
(定数30人)

昭和33年3月27日
町民憲章制定決議
(3・28告示)

昭和35年

昭和36年4月26日
上水道工事完成
(日野地区・西大路・仁本木・清田・別所・里口・猫田・十禅師)

昭和37年11月1日
日野文化会館開館(豊田)
昭和37年3月15日に着工し、同和対策事業の一環として開館。



昭和40年

昭和40年3月8日
第2代町長に
橋田喜一郎氏初当選

昭和41年4月28日
日野川ダム竣工(西大路)
洪水調整ダムとして昭和28年に着工。かんがい用水の不足から再検討され、多目的ダムとして完成しました。

昭和43年7月22日
綿向山・石楠花溪など
鈴鹿国定公園に指定



昭和45年

昭和44年1月21日
中学校統合案が議会で可決

昭和45年4月1日
彦根と枚方を結ぶ県道が
国道307号に昇格
直近の調べでは、1日に19,000台以上の車が往来しています。



昭和46年6月2日
日野中学校竣工
東中学校(村井)・北中学校(北脇)・西中学校(内池)を統合し、昭和46年に完成した日野中学校。平成20年度の校舎改築までの38年間、約12,000名の生徒がここから巣立ちました。



昭和47年1月14日
日野町総合発展計画
を議会で議決

昭和48年3月4日
第3代町長に
森田忠蔵氏初当選

昭和49年1月20日
町の木「ひの木」
町の花「ほんしやくなげ」制定

平成2年

平成2年8月25日
第24回「歩いて歩いて関東へ」
日本橋へゴールイン
日野から日本橋まで512km、参加人数は延べ6,392人にもなりました。



平成5年3月8日
第4代町長に
奥野弘三氏初当選

平成4年2月27日
「同和対策の終結をめざして、ふれあい町民集会」を開催

平成6年2月4日
県道泉日野線バイパス道路開通

平成2年5月16日
韓国扶餘郡恩山面と姉妹都市提携調印
小野にある鬼室神社には、約1,350年前、韓国(当時の百済)から移住した鬼室集斯(子)がまつられています。恩山面の恩山別神堂には鬼室福信(父)がまつられ、この歴史的事実が交流のきっかけとなりました。



昭和60年

昭和59年5月2日
ブラジル国エンブ市と
姉妹都市提携調印

昭和59年12月25日
「非核日野町宣言」を議会で議決

昭和60年4月7日
日野中央病院(現・日野記念病院)竣工

昭和63年4月30日
蒲生氏郷公銅像が
ひばり野に完成

昭和56年10月13日
第36回国体相撲競技開始(～18日)
各地区で選手団の民泊にご協力いただき、町民あげての大会になりました。



昭和55年

昭和54年5月27日
第1回「歩いて歩いて関東へ」スタート

昭和54年10月10日
大谷公園野球場竣工

昭和56年10月3日
近江日野商人館開館

昭和53年11月3日
三重県松阪市と文化交流都市提携締結
蒲生氏郷公が日野から松阪(現・松阪)へ居城を移して商人を誘致し、町割りを行い、松阪の町の基礎をつくられたことを縁に交流提携を結びました。現在も日野祭や氏郷まつりなど、相互訪問を行っています。



平成7年

平成7年4月1日
日野町公共下水道事業供用開始
(上野田・里口・内池東・内池西)

平成7年4月1日
老人保健施設「リスタあすなろ」開所



平成7年8月23日
NHK巡回ラジオ体操生放送
町民約4,000人が参加し、人文字作成
町村合併40周年記念事業として、日野中学校校庭で開催されました。

平成8年3月16日
日野町立図書館開館

平成8年10月29日
11月10日を「綿向山の日」として制定

平成9年4月19日
滋賀農業公園
「ブルーメの丘」オープン
オープンから平成22年1月までの入園者数は、568万人を超えました。



平成12年

平成11年11月18日
旧正野薬店が国の有形文化財建造物に登録

平成12年3月15日
県道中里山上日野線開通
(松尾～河原間)

平成12年4月23日
コテージ&オートキャンプ場
「グリム冒険の森」オープン

平成13年3月31日
鎌掛小学校が126年の歴史に幕を閉じる

平成14年9月22日
日野町・松阪市・会津若松市の3市町が「蒲生氏郷公ゆかりネットワーク共同宣言」に署名

平成17年

平成16年7月11日
第5代町長に
藤澤直広初当選

平成17年8月20日
戦後60年事業

平成17年11月8日
自律のまちづくり
住民シンポジウム

平成18年11月3日
憲法公布60年記念事業

平成19年3月31日
日野町地域総合センター(日野文化会館)閉館



平成19年4月1日
中部清掃組合ごみ処理施設・リサイクルセンター「クリーンわたむぎ」が稼動
環境に優しい最新の技術を取り入れた方式を採用。



平成20年3月22日
初めての民泊体験イベント
「親子で農家民泊体験」を実施
受け入れ家族と参加者の間に心の交流が生まれました。

平成21年3月13日
日野中学校校舎完成

平成21年7月22～24日
東大阪市の小学生167名が日野町で
農村民泊体験(町内46軒が受け入れ)

昭和50年

さんぽう

三方よし！ 近江日野田舎体験



平成20年3月に初めて行われた体験型観光の受け入れ。平成21年7月には、滋賀県で初めて子ども農山漁村交流プロジェクトの受け入れを行いました。旅人、受入側の双方に心からの感動を呼び起こし、人が、地域が元気になれる、文字通り「三方よし」の近江日野田舎体験を今後も積極的に推進していきます。

安心して子どもを 産み育てる



子どもは宝です。平成21年4月から妊婦健診費用を全額公費負担とし、妊婦さんに健やかな出産を迎えてもらえる環境をつくっています。

この5年間、町民の皆さんとの協働の中で、さまざまなまちづくりを進めてきました。これからも、町の特性や今ある資源を活かし、住み慣れた地域で安心して暮らすことのできるまちをめざしていきます。

自律のまちづくり5年

待望の日野中学校校舎が完成



第4次日野町総合計画に掲げ、最優先課題とした中学校の建設。平成19年12月に着工し、平成21年3月に校舎が完成しました。新しい学び舎には、子どもたちの元気な声が飛び交っています。

町を生きし 地域に活力を



歴史ある旧正野薬店の建物を生かした観光の拠点、「日野まちかど感応館」。平成20年度には感応館前駐車場にトイレを整備し、観光客の憩いの場となっています。

日野が原産 日野菜の振興



伝統を守りながら、新しい活用法を見出すため、平成19年6月、「日野菜プロジェクト委員会」が発足。日野菜を全国に向けて発信しています。

地域の川は 地域で守る



下迫では、平成17・18年度に地域を流れる迫谷川の川ざらえを、地域の皆さんの力で行われました。町内の各地域で地域の川を守る取り組みが行われています。



「広報ひの」は、資源保護のため再生紙を使用しています。